

アメリカと日本の教育の違い

島岡 里帆（高校2年）

私は教育に興味があり、アメリカでの様々な経験を通して、特に教育の違いや共通点について感じたことが印象に残っている。ここでは、アメリカと日本の教育の違いについて述べる。

まず、アメリカと日本の学校制度を比較する。アメリカでは日本と違い小学校5年間、中学校3年間、高校4年間というタイプが主流だ。高校受験がなく、住んでいる地域によって高校まで決まるので友達関係が濃い。また部活は日本のように一度入ったら基本3年間続けるということも少なく、年に4回あるシーズンごとに部活を変えられるそうだ。部活の指導者も専門のコーチが付くので教師は授業に専念でき、生徒もより深く活動ができる。ただ日本のような学級制度がなく部活も教師が監督しないため、生徒と教師の関係はそれほど濃くはない。例えば小学生と教師が遊んだり、昼食を一緒に食べたりという風景は普通見られないという。私は今まで学校の教師に沢山お世話になってきたので、アメリカの生徒と教師のあっさりした感じは少し寂しいような気がする。

次に、アメリカと日本の教育方針について比較する。アメリカでは「自主性」「ディベート力」「リーダーシップ」を育てる所に特徴がある。特にリーダーシップはどんな面接でも最重視される部分であり、リーダーシップがある生徒はとても尊重されるという。日本はリーダーシップを育てるというよりは「協力」「団結」など力を合わせることに重きを置いているので、その違いが面白いなと思った。また自主性に関してだが、派遣を通してトランス生の自分の考えやスタイルをしっかりと持っている所から、自主性という面を多々感じた。日本のように毎授業同じメンバーで過ごすことがなく友達に依存できない環境から、そういった自主性が養われているのではと思う。次にディベート力だが、アメリカでは3歳の頃からみんなの前で自分のお気に入りのものを紹介する、ということを始め人前で話すことに慣れていくと聞いた。また、アメリカの授業では議論するスタイルで進むことが多い。トランス生が「〇〇って運動神経良いよね」と言うのと同じ温度で「〇〇ってディベート上手いよね」と話していたことにとても驚いた。長所・短所として会話に出て来るほどそれだけディベートが一般的なものであるのだろう。日本でも最近「アクティブラーニング」といった対話を通した学習法が取り入れられ始めているが、ディベート力に関してはアメリカの高校生の方が抜群に高いレベルにあると感じた。

このような違いを通して日本の教育とアメリカの教育には全く違うと断言するほど沢山の違いがあり、それぞれの教育方法がそれぞれの国民性を形作っていると感じた。実際にアメリカで生活できたからこそ教育に関して視野を広められた。教育だけでなく、今回の派遣で学んだことを今後の人生につなげていこうと思う。

この夏は間違いなく人生で一番最高のものになった。支えてくださった方々に心から感謝したい。

